

留学生OB

アモイ
厦門理工学院 准教授リン ハイジュン
中国出身 林 海軍 博H22E

群馬大学工学部の学生時代



はじめたくさんの方から地域愛ということを教えていただきました。

修士課程修了後に半導体企業に回路設計のエンジニアとして就職し、デジタル回路設計の仕事を担当しました。しかしより進みたい方向があったので、小林先生によく相談をし、1年間で退職して、群馬大学小林研究室に戻り博士課程で勉学・研究を行いました。先生は私を成長させるためシャープや三洋電機との共同研究に参加させ、研究レベルを向上させるように指導してくれました。博士課程での研究は常にプレッシャーが伴いましたので、よく日光まで車で走り、夏の涼しさを感じ紅葉の美しさに癒され、気分転換して研究を頑張りました。2010年3月に博士号を取得し9年間にわたる群馬大学での留学生活が終わり、新しい人生を歩み始めました。

現在 2010年4月にアナログ集積回路の研究員として株式会社富士通研究所に就職しました。研究チームの皆さんと高速アナログ回路実現に向かって研究開発に全力で取り組みました。私も少しずつ成果を出せるようになりましたが、親の介護のために2011年9月に帰国することを決めました。現在は中国の大学の厦門理工学院で教員として学生を指導しています。小林先生の研究や学生に対する姿勢を思い出しながら頑張っています。帰国してからも毎年のように国際学会の場などを借りて先生とお会いすることができ、近況や研究に関することを相談しアドバイスをいただいています。これからも群馬大学、そして小林先生とのお付き合いがずっと続くと思います。留学して言葉や文化の壁を積極的に乗り越え、友人を作り、努力によりもっと素敵な自分に出会いました。それが私の人生の宝物です。いつも感謝の気持ちで人に接し、誇りを持ってしっかり頑張ることが良い留学生活を送るのに重要だと思います。私は13年間日本で学び働きました、自分は常に運が良いと思っています。学校でもアルバイト先でも職場でも沢山の方に親切にいただき、また困難に遭ったときには多くの方から助けを受けて、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも教育分野などを通じて日本との交流を深めて行きたいと思っています。

群馬大学での九年間

私は1998年10月に日本に渡り、最初に前橋の日本語学校にて日本語を勉強しました。日本語試験と大学試験の成績を得ました2000年2月に、沢山の方から親切を受け住み慣れました群馬で生活を送ろうと決心し、2000年の春に工学部電気電子工学科(当時)に入学しました。学部、大学院修士課程・博士課程で計9年間群馬大学に在籍し、私にとって桐生が第2の故郷になりました。

当時は生活費・学費を捻出するためにファストフード店でアルバイトをし、沢山の方と出会い、楽しくやっていました。特に永岡洋子店長には実の息子のように可愛がっていただきました。教えていただいたのは、二つの道があるときは必ず難しい道を選び、懸命に頑張る、いろいろな困難を乗り越えることで人が成長するということです。今でも永岡さんの言葉や姿をよく思い出します。

学部4年生の時に卒業研究として集積回路の設計を勉強するために小林春夫先生の研究室に入りました。先生はいつも難しい問題をわかりやすく説明し、頑張る学生に学会発表する機会を提供してくれました。大学院修士課程に進学してから同研究室でアナログ集積回路の研究をさせていただきました。

修士課程の2年間では選考を経て米山奨学生になり桐生ロータリクラブの方々にお世話になりました。特に蓮直孝様が私の世話人になって貴重なお時間を割いて私からの相談に応じてくれ、またお店にご一緒させていただき美味しい和食を堪能させていただきました。蓮さんは8月になると桐生祭りを全力でサポートされ私にも桐生祭りを教えてくださいました。蓮さんを